

*Paper*Back*Factory*

Eassay

 Column

Book Review



2001.09.11

New York、Washington、Pittsburgh

おそろしいことが起きました。とてつもなく、おそろしいことです。
未曾有の惨事です。禍々しい暴挙です。信じがたい悪夢です。

しかし、これは現実なのです。

詳細は時間を追うごとにさらに醜悪になっています。

真実も真相も未だ瓦礫の下にあります。

けれど、これは人が起こしたことです。

人が、人に対してなした行為です。

民主主義とか世界恐慌とか新世紀型テロという言葉では何一つ説明できません。
人々のごく普通の生活が、躊躇なく絶たれたのです。
木っ端微塵に打ち砕かれたのです。

ごく普通の生活は、コーヒーの匂いや、雨上がりの晴天の喜びです。
何気ない目配せや、靴ずれの痛みや、欠伸の涙や、腹の虫の鳴き声です。
デートの約束や、ビデオの録画予約や、ピザの配達です。
たくさんの人々のそんなありふれたものが、たった一瞬の攻撃で、
消えてなくなりました。
爆風に飛び、猛火に焼かれ、粉塵とともに崩れ落ちました。

映像が繰り返されるたびに思い起こしてください。

あの瞬間に、どれほどたくさんの生命が奪われたか。
どんなに大勢の人々が奈落の底に飲み込まれていったか。
何も知らされず、わけもわからないままに、
痛みと怒りと不安と希望の中で、たくさんの人が死んだのです。

どうか、心を麻痺させないでください。

おそれ、悲しみ、怒り、絶望の涙を流してください。

無関心は、すべての犯罪に荷担することです。

凄惨であるからこそ、悲劇であるからこそ、決して目を背けないでください。

あれは現実なのです。

2001.09.11



2001年10月10日 Ver1.0.0

著 者	仁川高丸
発行所	Paper * Back * Factory http://paper.honesto.net/ paper@honesto.net
P D F	Adobe Acrobat 4.0

© Takamaru Nigawa 2001

購読者本人が楽しむ目的以外の印刷と、
一切の複写、複製、貸与を禁止します。

